
 原 著

青年期ノ結核感染ト肺結核發病トノ時間的關係

醫學博士 小 林 義 雄

目 次

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 一。緒 論。 | 核發病時期比較。 |
| 二。「ツベルクリン」反應陽性轉化ト肺結核發病トノ時間的關係。 | 四。滲出性胸膜炎ト肺結核トノ發病時期比較。 |
| 三。「ツベルクリン」反應陰性者ト陽性者トノ肺結 | 五。總括及ビ結論。 |

一。緒 論

從來青年期ノ肺結核ハ其ノ幼時ニ於ケル古キ結核初感染ノ基礎ノ上ニ成立スルモノト信ゼラレテ來タ。而シテ、其ノ青年期ニ於ケル肺結核病機ガ古キ初感染竈ヨリノ再燃乃至轉移ニヨリ内元性ニ成立スルモノデアルカ、新シキ結核重感染ニヨリ外元性ニ成立スルモノデアルカニ就テハナホ議論ノ別ル、處デアツタガ、結核初感染後晩期ニ於テ發病スル事ニ就テハ殆ド異論ガ無カツタノデアル。

然シ乍ラ此ノ考ハ、從來一般ニ信ゼラレテ居タ様ニ人間ト言フモノハ青年期ニ於テハ殆ド總テ既ニ結核初感染ヲ受ケテ居ルモノダト言フ事ヲ前提トシテ居ルノデアル。若シ青年期ニ於テモナホ結核ノ未感染者ガアリ、從ツテ又初感染ガ起コリ得ルトシタナラバ、其ノ場合ニハ此ノ考ハ成立シナイ。處ガ少クトモ我が國ノ實情ニ於テハ必ズシモ從來ノ豫想通りデハナイ。私ノ軍隊デ調ベタ處デハ壯丁ノ約 30—50 % ハ未ダ「ツベルクリン」反應陰性デアル。夫等ノ者ハ種種ノ理由ニヨリ結核未感者ト解スベキモノデアル(1)。而シテ夫等ノ「ツベルクリン」反應陰性青年ハ軍隊入隊後モ次第ニ陽性轉化ヲ營ミツ、アルノデアル。是ニ由テ觀レバ我國ノ青年期肺結

核ハ必ズシモ從來考ヘラレテ居タ様ニ結核初感染後晩期ニ於テノミ發病スルモノトハ考ヘ難イノデアル。果シテ青年期肺結核ハ結核初感染後晩期ニ於テ發病スルモノナリヤ、早期ニ於テ發病スルモノナリヤ、是レ甚ダ興味深キ問題デアル。

然シ乍ラ肺結核ノ發病ハ多クハ徐々ニシテ其ノ發病時期ヲ明劃ニ決定スルニ困難ヲ感ズル。從來吾人ノ臨牀的ニ結核發病ト認ムルハ既ニ著明ナル打聽診の變化ヲ呈スルカ、然ラズンバ檢痰ニヨリ結核菌ノ證明セラル、場合デアル。然ルニ近來肺結核ノ早期診斷ハ長足ノ進歩ヲ來シ、其ノ胸部レントゲンの檢査ニ依ルテ最モ捷徑ト認メウルニ至ツタ。即チ胸部レントゲン檢査ヲ以テスレバ未ダ全ク臨牀的症狀ヲ缺如スル時期ニ於テ既ニ著明ノ肺病變ヲ發見スルコトガ少ク無イノデアル。從ツテ此ノ肺結核ノレントゲンの發病ハ從來ノ臨牀的發病ヨリモ先行スルコトニ成ル。斯ルガ故ニ吾人ガ肺結核ノ發病時期ヲ論ズルニ當ツテハ先ヅ其ノ發病ノ概念ヲ明カーセチバ成ラナイ。少クトモ吾人ハ先ヅ、肺結核ノレントゲンの發病、檢痰の發病、臨牀的發病ノ三者ヲ區別シテ考ヘチバ成ラナイノデ

アル。

然ラバ肺結核ノ結核感染後如何ナル時期ニ發病スルカヲ決定スル方法ガ在ルノデアラウカ。其ノ研究ニ最モヨイ方法ハ「ツベルクリン」反應陽性轉化ヲ紀元トシテ其ノ後如何ナル時期ニ肺結核ノレントゲンの、檢痰的乃至臨牀的發病ヲ來スカヲ決定スル事デアル。然シ乍ラ、其ノ爲メニハ「ツ」反應陽轉者ノ多數ニ就テ其ノ後數年以上10數年ニ互ツテ、其ノ個體ノ體況檢査ヲ續ケテ見テ成ラナイ。處ガ、余ノ本研究ニ著手シテカラ今日マデ、僅カ5年ニシカ成ラナイシ、又其間ニ得タ陽轉者ハ僅カ68例ニ過ギナイ。從ツテ此ノ方法ニヨツテハ此ノ問題ヲ解決スルニ未ダ不充分デアル。然ルニ幸ヒ茲ニ「ツ」反應陽性又ハ陰性ナリシ健康者ヨリ發病シタ肺結核ノ72例ガアル。夫等ニ就テ其ノ反應檢査時ヨリ發病マデノ期間ヲ調べテ見ル事ハ、間接ニ「ツ」反應陽轉後ノ發病時期ヲ決定スル資料ト成ル。ナホ普通型滲出性胸膜炎ノ發病時期ニ就テハ從來ノ余ノ研究(1,2,3)ニヨツテ、「ツ」反應陽轉後早期ナル事明カナルヲ以テ、ソノ普通型滲出性胸膜炎ト肺結核トノ發病時期ヲ比較スル事ハ亦、間接ニ「ツ」反應陽轉ト肺結核發病トノ時間的關係ヲ決定スル資料トナル。斯カル三種ノ方法ヲ以テセバ軍隊ニ於ケル結核感染ト肺結核發病トノ時間的關係モイササカ闡明セラルベキデアラウ。

斯ク肺結核ノ結核感染後如何ナル期間ノ後ニ發病スルカト言フ事ヲ決定スル事ハ種々ノ意味ニ

二、「ツベルクリン」反應陽性轉化ト肺結核發病トノ時間的關係

「ツベルクリン」反應陽性轉化ト結核性疾患ノ發病トノ時間的關係ヲ明カニスルニハ同反應ノ最終陰性時ト最初陽性時トノ關係ヨリ同反應陽性轉化時ヲ決定シ夫レヲ紀元トシテ夫レヨリ發病マデノ期間ヲ測定スルノガ一番確實デアル。余ハ右ノ目的ヲ以テ1927年6月以來1931年11月マデ4年5ヶ月ノ間東京海軍部隊ニ於テ此ノ

於テ必要ナ事デアル。其ノ第一ハ肺結核豫防上ノ問題デアル。結核ハ其ノ感染必ズシモ發病ヲ伴ハナイ。吾人ノ結核豫防上努力ヲ要スルハ主トシテ其ノ發病防止ニアル。而シテ從來其ノ發病ヲ防止スル爲メニハ漠然結核感染者ノ全部ヲ一視同仁ニ扱ツテ來タノdealガ吾人ノ見ヲ以テスレバ結核感染後最モ發病シ易キ時期ノミヲ監視シ、保護スルノガ勞少クシテ效多キモノト考ヘル。其ノ第二ハ肺結核治療上ノ問題デアル。肺結核ノ完全ナル治療ハ早期診斷ト早期治療トニ在ル。從來、肺結核ノ早期診斷ハ肺炎ト早期發見ニ在ツタ。然シ乍ラ近年、肺結核ノ早期浸潤ナルモノノ發見セラレ最近ニ於テハ肺結核ノ早期診斷ハ該早期浸潤ノレントゲンの檢出ヲ以テスルニ至ツタノデアル。然シ乍ラ、此ノ所謂早期浸潤ハ何等症狀ヲ呈セナイ事が多く、偶然ノレントゲン檢査ニヨツテ發見サレル事が多い。吾人ノ知り度イ事ハ、此ノ肺結核ノ早期浸潤ナルモノガ、結核感染後如何ナル時期ニ於テ發見スルモノデアルカト云フ事デアル。若シ其ノ時期ガ一定シタナラバ、自覺症ノ有無ニ拘ラス其時期ニ於テ胸部レントゲン檢査ヲ行ヒ、早期浸潤ヲ極メテ確實ニ極メテ早期ニ發見シ得ルノデアル。其ノ第三ハ胸膜炎トノ關係デアル。若シ肺結核ノ發病時期ガ胸膜炎ノ發病時期ト一定ノ關係ニ在ルトスルナラバ肺結核ノ發病ニヨツテ胸膜炎ノ發病ガ豫知シ得、或ハ胸膜炎ノ發病ニヨツテ肺結核ノ發病ヲ豫知スル事が出來ル譯デアル。從ツテ互ニ胸膜炎或ハ肺結核ノ發病ヲ豫知シ又、夫レヲ豫防シ得ル譯デアル。

「ツ」反應陽性轉化ト其後起コル結核性疾患トノ時間的關係ヲ調査シテ來タ。而シテ其ノ間余ノ自ラ發見シ得タル「ツ」反應陽轉者ハ合計68例ニ達シ、古キモノハ轉化後4ケ年餘ニ達スル。夫等「ツ」反應陽轉者ニ就テ東京部隊在勤中ハ勿論、他ニ轉勤後モ1930年10月及31年10月現在ヲ以テ照會調査ヲ行ヒ、陽轉後ノ體況ヲ追跡

シタ。而シテ余ノ陽轉例ハ多クハ毎月「ツ」反應
反復検査ニヨツテ發見シタモノデア。但シ一
部ハ遺憾乍ラ數月乃至1ケ年ノ間隔ヲ以テ「ツ」

反應ヲ反復シタモノデア。ルカラ陽轉時期ヲ斯ク
の確ニ決定スル事ガ出來ナカツタ。

第一表 「ツ」反應陽性轉化者ノ臨牀的竝ニレントゲンの追跡成績

陽轉 番號	人 名	兵 種	出 生 年 次	「ツ」反應陽轉		陽轉發見直後體況		1930年10月 體況		1931年10月 體況		陽 轉 觀 察 見 月 數
				最終陰性 時成績	最初陽性 時成績	レントゲ ン所見	臨牀所見	レントゲ ン所見	臨牀所見	レントゲ ン所見	臨牀所見	
1	■	經生	41	2.6.29 0	2.9.8 10	0	0	—	0	—	0	50
2	■	高經	33	2.11.10 2	3.7.5 15	—	0	—	0	—	0	40
3	■	..	33	2.11.10 3	3.7.5 17	—	0	—	0	滿期	—	28
4	■	特樂	42	2.11.17 0	3.4.9 21	0	0	—	0	—	0	43
5	■	..	38	2.11.18 0	3.11.8 10	右中肺野 下部及右 肺門下部 浸潤	0	同左浸潤 減退	0	—	右乾性胸 膜炎?	36
6	■	經生	42	3.6.14 0	4.7.16 13	0	0	0	0	—	0	28
7	■	..	43	3.5.10 0	4.7.16 12	右鎖骨下 部浸潤	0	右肺鎖骨 下部浸潤	0	右鎖骨下 部浸潤	0	28
8	■	..	41	3.5.10 0	4.7.16 13	0	0	0	0	0	0	28
9	■	普經	42	2.7.28 15	4.7.18 15	0	0	—	—	—	0	28
10	■	高經	37	3.11.5 0	4.7.17 15	0	0	—	0	—	0	28
11	■	..	39	3.11.5 0	4.7.17 15	0	0	—	0	—	0	28
12	■	..	40	3.11.5 0	4.7.24 18	0	0	—	0	—	0	28
13	■	..	37	3.11.5 0	4.7.17 8	0	0	—	0	—	0	28
14	■	..	39	3.11.5 0	4.7.17 12水	0	0	—	0	—	0	28
15	■	特樂	38	3.5.7 4	4.7.16 13	0	0	—	0	—	0	28
16	■	普經	43	4.7.17 4	4.10.7 10	左滲出性 胸膜炎	同左	—	左滲出性 胸膜炎痕 跡	—	左胸下部 抵抗呼吸 音弱檢痰 結核菌陽 性	25
17	■	..	40	4.7.17 3	4.10.10 12	0	0	—	0	0	0	25
18	■	..	42	4.7.17 0	4.10.10 8	0	0	—	0	—	0	25
19	■	特樂	39	3.12.17 4	4.10.10 8	0	0	—	0	0	外痔瘻ニ テ入院中	25
20	■	經生	45	4.7.16 3	4.10.10 14	0	0	0	0	0	0	25
21	■	..	43	4.7.16 3	4.10.14 12	0	0	0	0	0	0	25
22	■	普經	42	4.11.6 0	4.12.19 9	0	0	—	0	—	0	23
23	■	高經	37	4.12.11 0	5.1.20 10	右肺門部 浸潤	0	右中肺野 及右肺門 部浸潤	開放性肺 癆	6.8.1 死 亡	—	20

24	普經	39	4.12.11 0	5. 1.20 13	左鎖骨下 部浸潤	0	—	0	同左浸潤 減退	0	22
25	普經	39	4.12.11 0	5. 1.20 12水		0	0	—	—	0	22
26	普經	43	4.12.11 0	5. 1.20 16	左鎖骨下 部及左肺 門部浸潤	0	—	0	左鎖骨下 部圓形空 洞	0	22
27	普經	43	4.13.11 3	5. 1.20 18		0	0	0	0	0	22
28	普經	43	4.12.11 0	5. 1.20 5		0	0	—	—	0	22
29	經生	42	5. 1.20 0	5. 2.10 12水		0	0	0	—	0	21
30	高經	36	5. 1.20 0	5. 2.10 15		0	0	5.4.24 左胸膜炎 ヲ發セル モ 5.7.25治	0	胸部常胸 骨々瘍ニ テ入院中	21
31	普經	40	5. 1.20 0	5. 2.10 7		0	0	—	—	0	21
32	普經	39	5. 1.20 0	5. 2.10 5		0	0	—	—	0	21
33	經定	45	5. 2. 3 0	5. 3.13 20	右肺門腺 腫大	0	—	5. 8.14 急死 (急性肺 炎症狀)	—	—	6
34	高經	36	5. 3.12 0	5. 4.10 11		0	0	—	—	0	19
35	普經	40	5. 3.12 0	5. 4.10 14		0	0	—	—	0	19
36	經定	40	5. 3.13 0	5. 4.10 12		0	0	—	5.11.30 滿期	—	8
37	經生	41	5. 4.10 0	5. 5. 8 18		0	0	0	0	0	18
38	普經	37	5. 3.12 0	5. 5.20 14水		0	0	—	0	0	18
39	經定	40	5. 4.10 0	5. 5. 8 8		0	0	0	—	0	18
40	樂定	40	5. 5. 8 3	5. 6. 9 17水		0	0	0	左鎖骨下 部浸潤?	0	17
41	普經	35	5. 5. 8 0	5. 6. 7 14		0	0	—	—	0	17
42	普經	40	5. 4.25 0	5. 6. 7 14		0	0	—	—	0	17
43	經定	40	5. 6. 2 0	5. 7.11 18		0	0	—	6. 5.30 滿期	—	11
44	普經	43	5.12. 6 0	6. 1.19 20		0	0	—	—	0	10
45	電定	44	5.12.24 0	6. 1.26 12	左下肺野 上部浸潤	—	—	—	左下肺野 上部浸潤 消退	0	10
46	普經	43	5. 2.10 0	5. 3.12 12		0	0	—	—	0	9
47	電定	43	5. 2.10 0	5. 3.19 18		0	0	—	0	0	9
48	經生	2	6. 4. 4 0	6. 5. 4 20		0	0	—	0	右輕症型 胸膜炎	6
49	電定	42	6. 4.14 0	6. 5. 4 25	右肺門腺 腫大。	0	—	—	5.7.7 來 右滲出性 胸膜炎	同左	6
50	經定	2	6. 5.16 0	6. 6. 9 20		0	0	—	0	0	5

51	普經	43	6. 6.16 0	6. 6.30 8	0	0	—	—	—	0	5
52	電定	43	6. 5. 4 0	6. 6.23 18	0	(肛 瘻)	—	—	0	0	5
53	..	44	6. 3.17 0	6. 7.29 22	左滲出性 胸膜炎	同 左	6.9.11 死 剖檢肺結 核、腸結核	—	—	—	3
54	水女	45	5. 9.23 0	5.11.19 15	0	0	—	—	—	0	12
55	..	40	5. 9.25 0	5.11.19 10	0	0	—	—	—	0	12
56	..	1	5. 9.27 3	5.11.19 13	0	0	—	—	—	0	12
57	..	1	5. 9.27 0	5.11. 9 20	0	0	—	—	—	0	12
58	..	41	5.11.19 0	6. 2.19 10	急性全身 性粟粒結 核	結核性腦 膜炎脊髄 液菌證明	6.2.27 死 亡	—	—	—	1
59	..	2	5.11.11 0	6. 2.24 20	0	0	—	—	0	0	9
60	水男	43	5.11.19 0	6. 2.24 20水	左肺雙極 性浸潤	0	—	—	左滲出性 胸膜炎及 胸膜肥厚	同 左	9
61	..	37	5.11.19 0	6. 2.24 18	0	0	—	—	—	0	9
62	..	4	6. 2.24 0	6. 4.20 23水	0	0	—	—	—	0	7
63	..	2	6. 2.24 0	6. 4.20 5	0	0	—	—	—	0	7
64	水女	2	6. 2.24 0	6. 4.20 20	0	0	—	—	—	0	7
65	水男	40	6. 4.20 0	6. 6.27 15	0	0	—	—	6.9.1 解 瘡	—	4
66	水女	42	6. 6.22 0	6. 9.14 27水	0	左滲出性 胸膜炎	—	—	左胸膜肥 厚	0	2
67	水男	43	6. 9.14 0	6.11. 9 10	0	0	—	—	—	—	1
68	..	2	6. 9.15 0	6.11. 9 16	0	0	—	—	—	—	1
計	68	—	2. 6.29 -6. 9.15	2. 9. 8 -6. 2. 9	12	4	3	2	7	5	1-50

「ツベルクリン」反應陽性轉化後早期及ビ晩期ノ結核發病狀況。

「ツベルクリン」反應陽性轉化 68 例ノ運命ヲ追跡シタ結果ハ第一表ニ示ス通りデアル。其ノ成績ヲ「ツ」反應陽轉後早期(約 1 ケ年以内)ト晩期(約 1 ケ年以後)トニ分クテ統合シテ見ルト次ノ様ニナル。但シ陽轉後早期殊ニ其ノ發見直後ノ體況ハ何レモ余ノ東京海軍部隊ニ於テ余自ラ調査シタモノデアルガ、陽轉後晩期ノ體況ハ多クハ地方轉勤後海軍同僚ニ依頼調査シタモノデアル。

(1) 「ツ」反應陽轉後早期ノ體況。

68 例ノ「ツ」反應陽轉者ノ陽轉後早期乃至晩期ノ體況ニ就テハ他ノ機會ニ於テ詳述セントスル處デアルガ、其ノ内 1 乃至 50 ケ月ノ觀察中ニ肺癆ヲ發病シタモノハ第一表中ノ 12 例デアル。其ノ内早期ニ發病シタモノハ第二表第 1 乃至第 10 例及ビ第 13 例ノ 11 例デアル。但シ、其ノ内第 10 例ハ急性粟粒結核デ普通ノ肺癆デハナイ。尚ホ其ノ肺癆ノ内 3 例ハ滲出性胸膜炎ニ併發シタモノ(第 8, 9, 13 例)デアルカラ、初メヨリ肺癆病變ノミヲ示シタモノハ 7 例デアル。

早期發病ノ肺癆 10 例中レントゲンの發病 9 例、臨牀的發病 2 例(第 1 例、第 3 例)、檢痰の發病 1 例(第 3 例)剖檢ニヨリ發見サレタモノ 1 例(第 13 例)デア。而シテ夫等ノ早期ニ於ケル肺癆發病ハ「ツ」反應陽轉ニ引續キ起コツタモノデ急性肺癆ト稱スベキモノデア。幸ヒ其ノ大部分ハ良性ニ經過シ、其ノ一部(第 3 例、第 6 例、第 13 例)ノミガ惡性デ死ノ轉歸ヲ取ツタ。夫等急性肺癆ノ中、滲出性胸膜炎ヲ合併シタモノハ 3 例(第 8 例、第 9 例、第 13 例)デア。ナホ其ノ胸膜炎ノ 1 例(第 13 例)ハ生前臨牀的ニモレントゲンのニモ肺癆ヲ發見シ得ズ、死後剖檢ニヨツテ始メテ兩肺ノ原發竈肺癆殊ニ右肺ノ圓形空洞性肺癆ト腸結核トノ併發ヲ證明シタモノデア。 「ツ」反應陽轉例 68 例中其ノ後早期ニ於テ死ノ轉歸ヲ取ツタモノハ臨牀的發病ノ 3 例(第 3 例、第 6 例、第 13 例)及ビ急性粟粒結核症ノ 1 例(第

10 例)ノ 4 例デア。

(2) 「ツ」反應陽轉後晚期ノ體況。

「ツ」反應陽轉者 68 例中「ツ」反應陽轉後晚期ノ體況ヲ調査セシモノ、成績ハ第一表中ニ示スガ如シ。即チ、「ツ」反應陽轉後地方轉勤先ニ於テ又ハ東京ニ於テ 1930 年 10 月又ハ 31 年 10-11 月ノ健康調査票ノ成績迄ニ 1 ケ年以上ヲ經過セル晚期ニ於テ始メテ新タニレントゲンの乃至臨牀的ニ肺癆ヲ發病シタ例ハナ 1。唯陽轉第 40 例ニ於テ左鎖骨下部ニ怪シキ陰影ヲ生ジタ丈ケデア。唯 1 例(第二表第 11 例)ニ於テ滲出性胸膜炎經過後 2 ケ年ニシテ檢痰ニヨリ結核菌陰性ナルヲ發見シタガレントゲンのニモ臨牀的ニモホタ肺癆病變ヲ發見スルニ至ラナイ。然シ乍ラ「ツ」反應陽性轉化後早期ニ於テ既ニ肺癆病變ヲ呈シタルモノハ其ノ晚期ニ至ルモノハ殘存スルモノガ多イ。

第二表 「ツ」皮内反應「ツ」反應陽轉後ニ於ケル結核性疾患ノ發病例

番 號	人 名	兵 種	年 齡	陽 轉 番 號	「ツ」皮内反應		「ツ」反應陽轉後ノ症狀		其 後 ノ 經 過
					最終陰性 年月日及 ビ成績	最初陽性 年月日及 ビ成績	胸部レントゲン の症狀	胸部臨牀的の症狀	
1	■	樂 兵	24	5	2.11.18 2耗	3.11.1 10耗	3.11.7 右中肺野 下部及右肺門下部 浸潤	右背下部輕濁音及 ビ笛聲	6.10.10 右前胸下 部摩擦音アルモ赤 沈 2 耗自覺的健康
2	■	經 生	25	7	3. 5.10 0耗	4. 7.16 12耗	4.7.15 右鎖骨下 部浸潤	無	6.10.1 胸部レン トゲン變化ヲ貽ス モ健康
3	■	主 曹	27	23	4.12.11 0耗	5. 1.20 10耗	5.1.24 右中肺野 下部及右肺門下部 浸潤	右背下部輕濁音及 ビ笛聲	5.7.22 開放性肺 結核ニ移行死亡ス
4	■	主 曹	24	24	4.12.11 0耗	5. 1.20 13耗	5.1.21 左鎖骨下 部浸潤	無	6.10.1 胸部レン トゲン變化減退シ 健康
5	■	主 兵	21	26	4.12.11 0耗	5. 1.20 18耗 水泡	5.1.21 左鎖骨下 部浸潤兼左肺門部 浸潤	無	6.10.1 胸部レン トゲン變化ヲ貽ス モ健康
6	■	主 兵	19	33	5. 2. 3 4耗	5. 3.13 20耗	5.3.25 右下肺野 浸潤兼右肺門腫 大	無	5.7.14 急性肺炎 症狀ヲ以テ急死ス
7	■	電 兵	21	45	5.12.24 0耗	6. 1.26 12耗	6.1.30 左下肺野 上部浸潤	無	6.10.1 胸部レン トゲン所見ヲ貽ス モ臨牀的健康

8	機兵	25	49	6. 3.12 0耗	6. 4.14 10耗	6.5.12 右肺門部 浸潤	無	6.7.4 右滲出性胸膜炎ヲ發病6.10.1 輕快セルモノホレントゲン所見右肺門部浸潤ト胸膜肥厚ヲ胎ス
9	屬男	22	(8)	5.11.19 0耗	6. 2.26 20耗 水泡	6.2.26 左中肺野 上部浸潤	無	6.3.31左滲出性胸膜炎ヲ併發6.10.1 輕快セルモノ肺浸潤ト胸膜肥厚ヲ胎ス
10	屬女	23	(5)	5.11.19 0耗	6. 2.19 10耗	6.2.23 兩肺粟粒 結核	6.1.28 結核性腦 膜炎	6.2.27 結核性腦 膜炎ヲ呈シ死亡
11	主兵	20	16	4. 7.17 4耗	4.10. 7 10耗	4.10.7 左胸膜腔 滲出液アルモ肺野 又ハ肺門ニ浸潤ヲ 認メズ	4.9.22 左滲出性 胸膜炎發病	4.11.1 輕快退院 其後健康 6.11.2 檢痰結核菌陽性
12	主曹	28	30	5. 1.20 0耗	5. 2.10 15耗	5.5.12 透視及寫 眞殆ンド常肺野又 ハ肺門ニ浸潤ヲ認 メズ	5.4.21 左滲出性 胸膜炎ヲ發病	5.7.25 全治卒業 5.11.25 胸骨々瘍 ニテ入院
13	電兵	21	53	6. 3.17 0耗	6. 7.29 22耗	6.7.30 左滲出性 胸膜炎滲出液ノ爲 メ前面第二肋間以 下陰影アリ	6.7.19 左滲出性 胸膜炎ヲ發病	6.9.11 死亡、兩 肺初期變化群アリ 右初感瘰ハ空洞ト 成リ氣管枝性播種 ヲ營ム腸結核ヲ併 發ス
14	屬女	23	(13)	6. 6.22 0耗	6. 9.14 27水	6.9.16 左肺下部 滲出液ニテ覆ハル 其他肺野及肺門著 變無シ	6.9.14 左滲出性 胸膜炎ヲ發見	6.11.10 左胸下部 ニ陰影ヲ殘スモ赤 沈常體溫常自覺症 ナシ

肺結核ノ「ツ」反應陽轉後發病時期ニ關スル考察。肺結核ノ發病ヲレントゲンの、臨牀的、檢痰のニ區別シテ、其ノ「ツ」反應陽轉後如何ナル期間ノ後チニ起コリシヤヲ觀ル。

(1) レントゲンの發病。「ツ」反應陽轉例中レントゲンのニ肺野又ハ肺門ニ於テ肺浸潤ヲ發見シタモノハ第二表中第1-9例ノ9例デアアルガ其發現ハ何レモ「ツ」反應陽轉發見直後ニ於テ既ニ著明ニ認メラレタ。或ハ夫等ハ「ツ」反應陽轉發見以前カラ存在シタモノカモ知レナイ。然シ「ツ」反應陰性時ニ檢査シタ對照寫眞ニ於テハ全く存在セザル處ヨリ見ルト「ツ」反應陽轉ニ伴ツテ發見シタモノナル事ハ明カデアアル。余ノ陽轉 68 例ニ於テハ其ノ陽轉發見後 2-3 ヶ月或ハ數年後ニ於テ始メテ斯カル肺浸潤ノ發見シタト言フ例ガナイ。故ニ余ノ今迄ノ經驗デハ肺結核ノレントゲンの發病ハ「ツ」反應陽轉後晩期タル第三期(陽轉後 1 ヶ年以上 4 ヶ年以内) 及第四期(陽轉後 4 ヶ年以上) ハ勿論、其ノ早期中第二期(陽轉

後 3 ヶ月以上 12 ヶ月以内)ニ於テモノホ發見サレナイノデアツテ、唯極メテ早期ノ「ツ」反應陽轉後第一期陽轉後 3 ヶ月以内ニ於テノミ發見サレタノデアアル。

(2) 臨牀的發病。「ツ」反應陽轉發見直後ニ於テ肺ニレントゲンの發病ヲ認メタ 9 例中 2 例ハ數ヶ月以内ニ臨牀的ニモ發病スルニ至ツタ(第 3 及第 6 例)。ナホ第 13 例ハ胸膜炎ヲ發シテ始メテ診査セシ症例ニシテ胸膜炎發病以前ノ「ツ」反應陽轉第一期ニ於ケル體況ヲ詳カニシナイガ死後剖檢ニヨツテ始メテ左右兩肺ニ肺癆ノ發病セルヲ認メタモノデアアル。然ルニ「ツ」反應陽轉後第一期ニ肺レントゲンの發病ヲ認メズシテ後ニ第二期ニ及ビテ始メテ臨牀的發病ヲ來シタト云フ例ハ 1 例モナイ。又「ツ」反應陽轉後 1 ヶ年以上ヲ經テ第三期即チ所謂結核感染後晩期ニ至リテハ始メ肺浸潤ヲ呈セシモノヨリモ、呈セザリシモノヨリモ未ダ 1 例モ臨牀的肺結核ヲ發病シタ例ガナイノデアアル。次ニ臨牀的發病ノ 3 例ヲ

掲ゲル。陽轉第23例(■) 1929年12月11日「ツ」皮内反應0 耗陰性、30年1月20日10 耗陽性ニ轉化ス。同日胸部レントゲン寫眞検査ヲ行フニ12月10日ノ陰性時對照寫眞ト較ベテ相當著明ノ差異ヲ認メ右中肺野下部及右肺門下部ニ浸潤ヲ呈スルニ至ツタ。然シ當時ハ唯輕度ノ發熱ヲ呈スル丈ケデ全ク胸部臨牀的症狀ヲ缺イタガ3月頃ヨリ臨牀的症狀著明ト成リ發熱高度ニ昇リ右背下部ノ濁音ト笛聲トヲ呈スルニ至ツタノデアアル。7月22日一ハ遂ニ檢痰的ニモ結核菌陽性ニ成リ爾來1ケ年間横須賀海軍病院ニ於テ加療シタガ3年8月1日ニ死亡シタ。即チ「ツ」反應陽轉1ケ月以内ニ於テレントゲンのニ右中肺野下部及右肺門下部浸潤ヲ發病シ、陽轉後2-3ケ月一シテ臨牀的ニ右背下部肺浸潤ヲ發病シ、陽轉後6ケ月一シテ檢痰的ニ開放性肺癆ヲ發病シ、陽轉後約1年半ニシテ死ノ轉歸ヲ取ツタモノデアアル。

陽轉第33例(■)ハ1930年2月3日「ツ」皮内反應0 耗陰性、3月13日20 耗陽性ニ轉化ス。同月25日胸部レントゲン寫眞検査ヲ行フニ右中下肺野浸潤及右肺門腺腫大ヲ發見、次デ輕度ノ發熱ト赤血球沈降速度ノ輕度亢進ヲ來セルモ胸部自他覺的症狀ヲ呈セズ、同年8月14日夏季休暇歸省中、急性肺炎様ノ病狀ト吐血トヲ來シ即日死亡セリト謂フ。其ノ病狀明カナラザルモ「ツ」反應陽轉後1ケ月以内ニ於テレントゲンの發病ヲ來シ、陽轉後5-6ケ月ニテ臨牀的ニ急性肺癆ヲ發病シ間モナク死ノ轉歸ヲ取ツタモノト想像サレルノデアアル。

陽轉第53例(■)ハ1931年3月17日「ツ」反應0 耗陰性ナリシガ同年7月19日左滲出性胸膜炎ヲ發シ9月11日死亡、剖檢ニヨリ始テ左右兩肺ノ原發竈肺癆ト殊ニ右側ノ早期空洞ト腸結核トヲ發見シタモノデアアル。本例ハ別ニ詳細報告スル豫定デアアル。

(3) 檢痰的發病。「ツ」反應陽轉68例中余ノ觀察期間中ニ檢痰的發病ヲ來シタルハ前記陽轉第23例(■)及陽轉第16例(■)ノ2例デアアル。

ナホ陽轉第53例(■)ハ生前ノ檢痰ニヨリ結核菌ヲ證明シ得ナカッタガ剖檢ニヨリ開放性肺癆ナル事ガ證明セラレタ。而シテ第23例ハ陽轉後6ケ月目ニ第16例ハ2日目ニ第53例ハ6ケ月以内ニ檢痰陽性ト成ツタノデアアル。次ニ第16例ヲ詳記スル。

陽轉第16例、(■) 22歳、男子、主兵、明治43年新潟縣ノ某農村ニ於テ出生。家族ニ結核患者ナシ。昭和3年6月ニ甲種合格ヲ以テ横團ニ入籍。當時身長157.3 糎、體重47.5 斤、肺活量3600 糎、胸圍79.0 糎、胸廓擴張7.5 糎、胸部其他身體各部常。體重ハ入團後増加シ、同年9月ハ54.7 斤、4年3月ハ56.0 斤ト成ル。

4年5月1日上海海經校ニ普經練生トシテ入校。當時身體異常ナク7月17日「ツベルクリン」皮内反應ヲ檢スルニ0/4ニシテ陰性。同年9月體重54.5 斤。同年10月7日左滲出性胸膜炎ヲ發セルヲ以テ即日「ツ」反應ヲ檢スルニ10/10ニシテ陽性ナルヲ發見ス。當時臨牀的ニモレントゲンのニモ檢痰的ニモ肺癆ノ發病ヲ認メズ。胸膜炎ハ休業6日及ビ入院25日ニヨリ左肩胛下部輕濁音(肺活量3100 糎)ヲ貽シテ治癒シ、11月1日卒業横團ニ轉勤ス。健康ニシテ經理事務ニ從事セシガ體重ハ5年3月53.3 斤、同年9月ハ52.1 斤、同年11月6日横團ニテ健康診査ヲ行フニ體重52.0 斤、體溫37度2分左肺尖少數ノ水泡音アリ、右背下部打音短調ナリ。6年3月體重52.0 斤、同年9月48.0 斤ニシテ體重漸減ノ傾向アリ。同年10月10日軍艦愛宕ニ於テ健康診査ヲ行フニ身長158.0 糎、體重51.1 斤、肺活量3300 糎、胸圍84.0 糎、胸廓擴張8.0 糎體溫37度0分、胸部左胸前面第四肋間以下、同背面肩胛下部打診上輕度ノ抵抗アリテ呼吸音微弱ナリ。11月2日檢痰スルニ結核菌(ガフキー三號)ヲ證明直チニ吳病ニ送院ス。入院後11月4日及ビ11月10日檢痰スルニ共ニガフキー七號陽性、11月14日胸部レントゲン寫眞検査ヲ行フニ左中野ヨリ上野ニ向ヒ稀薄ナル陰影アリシト謂フ。11月18日野島ニ便乘、11月20日

横病ニ轉入院ス。體格中等、榮養衰へ脈搏正調強實。舌淡白色苔ヲ衣ス。兩鎖骨上窩抵抗アリテ呼吸音微弱ナルモ水泡音ヲ聽カズ。左胸背下部抵抗アリ呼吸音微弱ナルモ異常音ナク、腹部異常ナシ。11月29日檢痰結核ガフキー二號。11月26日赤沈反應1時間15耗、2時間31耗、24時間96耗、コスター反應4分。11月30日體重48.3斤。12月6日檢痰結核菌陰性。體溫ハ入院後37度以上ニ昇リシ事ナシ(本例ハ余ノ「胸膜炎ノ成因及ビ豫防ニ關スル研究第四報告」(4)及ビ「ツベルクリンアレルギー」ト肋膜炎(1)中ニ記載セル症例ニシテナホ追跡中ナリ)。右3例ノ事實ヨリ觀ルニ肺結核ノ檢痰の發病ハ「ツ」反應陽轉後早期ニ於テモ起コル事ガアルガ晚期ニ於テモ起コル事ガアルラシイ。但シ、陽轉第16例ノ場合ハ「ツ」反應陽轉後數ヶ月間、滲出性胸膜炎治癒マデノ間ハ檢痰毎回陰性デアツタガソレカラ後約2年間ハ一度モ檢痰シテ居ラナイカラ何時カラ開放性肺結核ガ始マツタカ不明デアル。病歴ヲ見ルト5年11月ニ左肺尖ニ水泡音ガ在ツタト言フ事デアルガ當時ハ體溫モ殆ド正常デアリ、自覺症モ無カツタノデ受療シテ居ナイ。其ノ當時胸部レントゲン検査ヲ行ヒ且ツ檢痰シタナラバ、既ニ其ノ時ニ發病ガ發見サレタカモ知レナイ。

三。「ツベルクリン」反應陰性者ト陽性者トノ肺結核發病時期比較

「ツベルクリン」反應陽性轉化ト肺結核發病トノ時間的關係ヲ知ルニハ前章ノ如ク其轉化後發病マデノ期間ヲ測定スルノガ最モ確實デアル。然シ余ガ過去4年半ノ間東京海軍部隊ニ於テ得タル「ツ」反應陽轉例ハ僅カ前記68例ニ過ギナイ。而シテ夫等陽轉者中カラ其後1ヶ月乃至4ヶ年ノ經過中ニ肺結核ヲ發病シタモノハ前記12例ニ過ギナイノデアル。斯ク少數例ニ就テ斯ク短期間ノ間行ツタ觀察丈ケデハ此ノ重大問題ヲ決定スルニ不充分デアル。然ルニ幸ヒ茲ニ、「ツ」反應検査後數年間ノ間ニ發病シタ肺結核ノ72

之ヲ要スルニ以上余ノ「ツベルクリン」反應陽性轉化68例ノ經驗デハ、其ノ陽轉第一期ニ於テハ肺癆ヲレントゲンのニ發病シタモノハ9例アルガ臨牀的又ハ檢痰的ニ發病シタモノハ1例モ無イ。而シテ夫等肺癆ノ病型ハ何レモ原發竈肺癆ニ相當スルモノデアル。陽轉後第二期ニ於テハ右ノレントゲン發病例中ノ3例ハ臨牀的乃至檢痰的ニモ發病シタガ新ニレントゲンの臨牀的又ハ檢痰的ニ發病シタモノハ1例モ無イ。陽轉後第三期ニ至ツテハ第一期ニ於テレントゲンの發病不明ニシテ、第二期ニ於テ滲出性腦膜炎ヲ經過セシ1例ニ就テ健康診斷的檢痰ニヨリ結核菌ヲ證明セシ外、レントゲンのニモ臨牀的ニモ又、檢痰的ニモ1例ノ發病例ヲ發見セナイ。右ノ事實ハ未ダ肺結核ノ結核初感染後如何ナル時期ニ發病スルヤノ問題ヲ解決スルニハ不充分デアアルガ、其ノ反應陽轉後第一期ニ於テ既ニ將來、肺癆ノ臨牀的乃至檢痰的發病ノ起源タルベキレントゲンの發病ヲ呈スル事少ナカラザル事實ハ特ニ注目ニ値スル處デアル。而シテ若シ斯カル場合ニ「ツ」反應陽轉後第一期ノレントゲンの検査ヲ缺ク時ハ夫等肺癆ハ第二期又ハ第三期ニ於テ始メテ發病シタカノ觀ヲ呈スルデアラウ。

例ガアル。夫等ニ就テ陰性者ト陽性者トノ肺結核發病時期ヲ比較シテ其ノ缺ヲ補フ事トスル。我ガ海軍ニ於テハ昭和2年7月以來東京海軍部隊及ビ各海兵團ニ於テ度々「ツベルクリン」皮内反應検査ガ試ミラレタ。其ノ方法ハ千倍「ツ」液0.1 珪皮内注射ニヨリ48時間後發赤浸潤直後10耗以上ヲ陽性トシタノデアル。夫等検査ニヨリ「ツ」反應ガ陰性又ハ陽性デアツタ者カラ、其後昭和5年11月マデニ72名ノ肺結核患者ガ發病シテ居ルノデアル。但シ、茲ニ肺結核發病ト稱スルハ臨牀的發病兼檢痰的發病デアルカ又ハ

單ニ檢痰の發病ノ意味デアツテ單ニレントゲンの發病又ハ臨牀的發病丈ケノ場合ハ含マレテ居ナイ。而モ多クハ自覺症ヲ伴フ開放性肺癆患者デアル。

1. 「ツ」反應陰性健康兵ヨリ發病セル肺結核。72例ノ肺結核中、海軍入籍後、肺結核發以前ノ健康時ニ行ツタ「ツ」反應ガ陰性デアツタ者が16例アル(第三表)。夫等ノ肺結核ハ海軍入籍時ナホ結核未感染者デアツテ、其後海軍在籍中ニ「ツ」反應ノ陽性轉化ヲ來シ、其後幾何カノ年月ヲ經テ肺結核ヲ發病スルニ至ツタ者デアル。從ツテ夫等ニ於テハ其ノ以前ニ檢査セル「ツ」反應ノ最終陰性時カラ發病時マデノ期間ハ、「ツ」反應陽轉時ヨリ發病時マデノ期間ニ幾何カノ年月ノ加ハツタモノデアル。從ツテ、其ノ場合ニ於ケル「ツ」反應陽轉後發病マデノ期間ハ、此ノ最終陰性時ヨリ發病マデノ期間以内ナル事確實デアル。若シ此ノ最終陰性ヨリ發病マデノ期間ガ1ケ年以内デアツタトスルナラバ、其ノ肺結核ハ「ツ」反應陽轉後1ケ年以内即チ早期ニ發病シタモノダト謂ヘル。反應、1ケ年以上デアツタトスルナラバ、夫レハ早期ニ發病シタモノデアルカモ知レナイシ、晚期ニ發病シタモノデアルカモ知レナイ。第三表ニ就テ見ルニ16例中3例ハ「ツ」反應最終陰性後1ケ年以内ニ肺結核ヲ發病シテ居ルガ、其他ノ13例ハ1ケ年以上3

ケ年以下ノ期間内ニ發病シテ居ル。3年以後ハ調ベテナイ。此ノ事實ノミヲ以テ結論スレバ、確カー「ツ」反應陽轉後早期ニ發病シタモノハ少數デアツテ、陽轉後晚期ニ發病シタ者ノ方が多イノデハ無イカト想ハレル。然シ、最終陰性後1ケ年以後ニ發病シタ肺結核中、如何ナル割合ニ早期發病ノモノト晚期發病ノモノトガ含マレテ居ルカ不明デアルカラ之ヲ斷定スル事ハ出來ナイノデアル。若シ夫等ノ一部ガ晚期ニ發病シタモノダトシテモ夫レハ其ノ晚期ノ最初ノ時期即チ陽轉後3年以内ニ發病シタモノナル事ハ確實デアル。數年モ10數年モ以前ノ幼時ニ於ケル「ツ」反應陽轉ノ後チニ發病シタモノデ無イ事丈ケハ斷言出來ル。

是ニ由テ觀レバ我が海兵ニ於テハ「ツ」反應陽轉後3ケ年以内ニ發病セル開放性肺結核ノ相當多數存在スル事ヲ知ル事が出來ル。此事實ハ又夫等肺結核ノ結核感染後3ケ年以内ニ發病スル事ノ少ク無イ事ヲ示スモノデアル。從來軍隊ノ肺結核ニ就テハ既ニ入隊前ヨリ體內ニ胚胎セル肺結核ガ入隊後ニ於ケル兵業過度一ヨリテ偶然再燃セルモノデアルト説ク者がアル。若シ果シテ然リトセバ、夫等肺結核ハ入隊時「ツ」反應陽性ナリシ者ニノミ發病スベキデアル。然ルニ事實ハ必ズシモ然ラズ。軍隊肺結核ノ少クトモ其ノ一部ハ軍隊入隊後ニ起コツタ新感染ヨリ3年以内ノ間ニ發病スル肺結核ナル事ヲ確認セテハ成

第三表 「ツ」反應陰性健康兵ヨリ發病セル肺結核

番 號	人 名	兵 種	年 齡	最終「ツ」反應		既 往 症	病 名	發 病 年 月 日	發 病 場 所	入 院 院 名	在 院 日 數	轉 歸 年 月 日	轉 歸	轉 歸 場 所	最 終 發 病 マ デ 月 數 ヨ リ
				年 月 日	ビ ル ケ 原 液 マ ン ツ ウ 千 倍										
1	■■■■	三機	21	4.10月	—	無	肺結核	4.12.12	横	横					3
2	■■■■	二水	20	2.9月		無	同	3.5.19	佐	佐	86	3.8.17	免	佐	9
3	■■■■	二機	21	2.9月	!	無	同	3.8.2	22驅	佐	162	4.1.28	免	佐	12
4	■■■■	普經 三主	22	2.7.29 3.5.10	— !	4.2.5 慢性氣 管枝炎	同	4.7.27	吳團	吳	71	4.10.6	死	吳	15

5	■	三水	21	3.3.28	—	—	4.5.3 腹膜炎	同	4.5.31	吳病	吳	82	4.8.11	死	吳	15
6	■	二水	22	4.9.27	—	—	無	同	5.10.12	横	横					16
7	■	三水	21	3.3.15	—	—	4.5.27 胸膜炎	同	4.7.31	横病	横	96	4.8.25	免	横	17
8	■	二機	21	3.1.18	—	—	無	同	4.8.28	佐	佐	199	5.3.15	免	佐	20
9	■	二機	21	3.1.18	—	—	無	同	4.10.25	佐	佐	350	15.10.10	死	佐	22
10	■	三水	21	3.1.18	—	—	無	右胸膜炎 肺結核	4.10.19	佐	佐	418	5.12.11	死	佐	22
11	■	三水	21	2.8.1	—	—	無	肺結核	4.8.19	水校	横吳	68	4.11.12	免	吳	25
12	■	三機	21	2.7.29	—	—	無	同	4.9.16	日向	横	196	5.3.31	死	横	27
13	■	三水	21	2.8.1 2.9.24	—	—	無	同	4.12.7	11驅	吳	150	5.5.6	免	吳	28
14	■	二水	22	3.3.20	—	—	無	同	5.7.15	機校	舞	96	5.10.19	免	舞	29
15	■	三水	21	2.9月	—	—	無	同	5.7.11	佐	佐	64	5.9.13	免	佐	31
16	■	三水	21	2.9月	—	—	無	同	5.11.1	佐	佐	16	5.11.17	止	佐	35
總括			20- 22	2.7月 -4.10月	—	—	無 13 有 3	肺結核 15 兼胸膜炎 1	3.5月 -5.11月							3月 乃至 35月

ラナイノdeal。

2. 「ツ」反應陽性健康兵ヨリ發病セル肺結核。
海軍入籍後「ツ」反應ヲ検査シテ、其ノ成績ガ陽性デアツタ健康兵ノ中カラ、其後數年ノ間ニ56例(昭和5年11月迄)ノ肺結核ガ發病シテ居ル(第四表)。夫等ノ肺結核モ亦前記ノ通り、其ノ大部分ハ臨牀的兼檢痰的ニ發病シタ肺結核デアリ一部ハ檢痰的ニミ發病シタ肺結核deal。
夫等ノ肺結核ハ「ツ」反應最初検査ノ時ヨリモ以前ニ於テ既ニ「ツ」反應陽轉ガ在リ、其陽轉ノ後ニ肺結核ガ起キタモノdeal事ハ確deal。
併シ其ノ「ツ」反應陽轉ガ、其ノ「ツ」反應検査時ノ一日前カ、數年前カ、十數年前カ判ラナイノdeal。
從ツテ其ノ肺結核ハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病シタモノカ晚期ニ發病シタモノカ判ラナイノdeal。
唯、其ノ肺結核ガ最初陽性時ヨリ1ケ年以後ニ發病シタ場合ニハ夫レハ「ツ」反應陽轉後晚期ニ發病シタモノダト言ヘルケレドモ、1ケ年以内ニ發病シタ場合ニハ夫レガ晚期ニ發病シタモノカ早期ニ發病シタモノカ判ラナ

イノdeal。

第四表ニ就テ見ルニ55例中最初陽性時ヨリ1ケ年以内ニ發病シタモノガ案外多クテ30例ニ達スルガ其他ノ26例ハ1ケ年以上2ケ年以内ニ13例、2年以上3年以内ニ13例發病シタモノdeal。
3ケ年以後ニ於テモ發病スルノカモ知レナイガ、夫レマデシカ調査ガシテナイ。是ニ由テ見ルト1年以内ニハ其後1年間ノ發病數ヨリモ17例多ク發病シテ居ル。
我が海軍ニ於テハ夫等肺結核ノ發生母體タル「ツ」反應陽性ナル健康者ノ常ニ多數存在シ増加スルモ減少スル事無キニ拘ラズ、斯ク陽性反應後1年ヲ經過スレバ肺結核ノ發病數ヲ減少スルノdeal。
此ノ事實ハ夫等「ツ」反應陽性健康者ヨリ發病スル肺結核ト雖モ「ツ」反應陽轉後早期又ハ晚期ノ初期(第三期)ニ發病セシモノガ多數デアツテ「ツ」反應陽轉後數年モ十數年モ經過シテカラ(第四期)發病スルモノハ少數デアラウト言フ事ヲ想像セシメル。
ナホ此ノ問題ハ後チニ詳述スル。

第四表 「ツ」反應陽性健康兵ヨリ發病セシ肺結核

番 號	人 名	兵 種	年 齡	「ツ」反應陽性成績			既 往 症	病 名	發 病		在 院 轉 歸				ツ 反 應 最 初 陽 性 時 數	
				年 月 日	ビ ル ケ 原 液	マ ン ツ ウ 千 倍			年 月 日	場 所	院 名	日 數	年 月 日	種 類		場 所
1	████	三水	20	5.7.19		卅	無	肺結核	5.8.8	佐團	佐	71	5.11.1	免	佐	2
2	████	三機	21	2.7月	+	+	無	同	2.8下	吳團	吳	31	2.10.4	免	吳	2
3	████	四水	18	2.7月	+	+	無	同	2.9.14	吳病	吳	41	2.10.25	免	吳	3
4	████	三水	20	2.7月	+	卅	無	肺結核 肛圍膿瘍	2.9下	韓崎	吳	57	2.12.6	免	吳	3
5	████	三機	22	3.3.24	+	+	無	肺結核	3.5.12	伊勢	吳	71	3.8.7	免	吳	3
6	████	三水	22	3.3.26	+	卅	無	同	3.5.28	大井馬	吳	356	3.12.11	免	吳	3
7	████	高三 主曹	25	4.11.6		11	4.12. 肛圍膿瘍	肺結核 咯血	5.2.28	經校	醫校 橫	44	5.4.16	免	橫	4
8	████	三水	22	3.3.26	+	卅	3.5.21 肛圍膿瘍	肺結核	3.6.13	吳病	吳	97	3.9.18	免	吳	4
9	████	三水	21	3.3.13	-	+	3.6.18 慢性氣管 枝炎	肺結核	3.7.20	吳病	吳	120	3.11.6	免	吳	4
10	████	高三 主曹	24	3.11.5		13	無	同	4.3.1	經校	橫	51	4.4.27	免	橫	5
11	████	三機	20	2.7月	+	+	無	同	2.11.4	吳病	吳	32	2.12.6	免	吳	5
12	████	三機	22	3.1.14	+	卅	無	肺結核 外痔瘻	3.5.5	佐團	佐	159	3.10.1	免	佐	5
13	████	三主	20	2.7.25	+	卅	無	肺結核 咯血	2.12.12	淺間	吳	477	4.4.2	免	吳	6
14	████	三機	22	3.1.14		卅	無	肺結核	3.6.7	佐	佐	62	3.8.8	免	佐	6
15	████	三水	21	3.3.20	-	+	3.4.9 右胸膜炎	肺結核	3.8.27	龜病	龜	467	4.11.24	免	龜	6
16	████	三水	21	3.3.26	+	卅	3.3.1 右胸膜炎	肺結核	3.8.6	吳病	吳	124	3.9.4	免	吳	6
17	████	三機	21	3.3.24	+	卅	無	肺結核	3.8.18	扶桑	舞	47	3.10.24	免	舞	6
18	████	三機	21	3.3.8	+	+	無	同	3.9.25	那智	吳	161	4.3.5	免	吳	7
19	████	三水	22	3.3.8	-	卅	無	同	3.9.9	吳團	吳	21	3.10.2	免	吳	7
20	████	三水	19	2.7月	+	卅	無	同	3.1.23	日向	吳	165	37.2.3	免	吳	7
21	████	普一 經主	22	3.11.5		16	4.5.1 慢性氣管 枝炎	肺結核	4.5.8	佐團	佐	219	5.1.21	死	佐	8
22	████	普一 經主	21	5.4.23		13	無	結核性 腦膜炎	5.11.10	吳團	吳	6	5.11.20	死	吳	8
23	████	高二 主曹	26	4.1.16		15	無	肺結核	5.7.10	經校	橫吳			治	吳	9
24	████	三水	21	2.7月	+	卅	左胸膜炎	肺結核	3.5.16	水校	橫吳	105	3.9.4	免	吳	10
25	████	三主	21	2.7月	+	卅	無	肺結核	3.4.5	間宮	吳	102	3.8.7	免	吳	10
26	████	三水	23	3.3.15	+	卅	無	同	4.1.4	吳團	吳	99	4.5.7	免	吳	11

27	三機	19	2.7月	++	3.5.3 肛圍膿瘍	肺結核	3.5.8	吳病 吳	133	3.9.18	免 吳	12
28	三水	22	2.7月	++	無	肺結核	3.6.8	日向 吳	62	3.9.4	免 吳	12
29	三機	21	3.3.27	++	無	同	4.2.12	六掃 吳	42	4.4.2	免 吳	12
30	三水	21	4.10月	++	無	同	5.8.20	橫團 橫			免	12
31	高二主 經曹	28	2.7.14	13	無	同	3.7.4	日向 吳	155	3.12.11	免 吳	13
32	高二主 經曹	26	4.11.16	15	無	同	5.12		橫		免	13
33	三機	21	3.3.24	++	3.12.25 右胸膜炎	肺結核	4.3.20	吳病 吳	222	4.8.3	死 吳	13
34	三機	24	3.1.14	-++	無	肺結核 左胸膜炎	4.2.19	佐團 佐	72	4.5.6	死 佐	14
35	二機	22	3.3.24	++	3.11.26 肛圍膿瘍	肺結核	4.5.30	吳病 吳	140	4.7.2	免 吳	15
36	二機	21	3.3.27	++	無	肺結核	4.7.10	間宮 佐吳	78	4.10.1	免 吳	17
37	三水	21	3.3.19	++	3.6.30 肛圍膿瘍	肺結核	4.8.27	佐病 佐吳	80	4.9.12	免 吳	18
38	高二主 經曹		3.11.5	10	無	肺結核	5.5.15		46		免	19
39	高二主 右曹	26	2.7.6	15	無	同	4.3.6		橫	4.5.10	免 橫	21
40	三機	21	3.3.26	++	無	肺結核 咯血	4.12.5	妙高 吳	117	5.4.1	免 吳	22
41	二機	21	2.7月	+++	無	肺結核	4.5.16	掃 吳	43	4.7.16	免 吳	23
42	二機	22	2.7月	-++	無	同	4.5.6	吳團 吳	55	4.7.2	免 吳	23
43	二機	21	3.3.24	++	4.6.10 肛圍膿瘍	肺結核	5.2.18	朝日 吳	69	5.4.8	死 吳	24
44	二水	22	3.1.14	1+++	無	肺結核 右胸膜炎	5.1.11	佐 佐	101	5.4.22	免 佐	25
45	二機	22	3.1.14	-+++	無	肺結核	5.2.23	佐 佐	201	5.9.13	免 佐	26
46	二水	22	3.1.14	++	無	同	5.2.4	佐 佐	194	5.8.19	免 佐	26
47	一機	18	2.7.28	++	無	同	4.9.20	吳防 吳	43	4.11.2	免 吳	27
48	三機	22	3.1.14	-++	無	肺結核 左胸膜炎	5.6.26	佐 佐	78	5.9.13	免 佐	30
49	高二主 經曹		2.11.10	15	無	肺結核	5.5.12		橫	70	免 橫	31
50	同名		2.11.10	11	無	同	5.6.21				免	32
51	同右		2.11.10	18	無	同	5.6.18				免	32
52	三機	22	3.1.14	-+	無	同	5.8.18	佐 佐	104	5.11.30	免 佐	32
53	三機	22	3.1.14	++	無	同	5.10.1	佐 佐	30	5.11.1	免 佐	34
54	普一 經主	21	2.12.2	20	3.3.1 左胸膜炎 4.8.10 外痔瘻	肺結核	5.9.18	吳團 吳	12	5.10.2	免 吳	34
55	普二 經水	20	2.7.6	13	無	肺結核	5.5.27	14 驅 吳	97	5.9.2	免 吳	35
56	高三主 縱曹	22	2.11.10	12	無	同	5.11.7				免	35
總括		兵 45 下士 11	18- 26	2.7月 -5.7月	陰 8 陽 29	肛圍膿瘍 6 胸膜炎 5	兼同左 2 兼同左 3	2.8月- 5.12月				2-35 日

肺結核ノ「ツ」反應陽轉後發病時期ニ關スル考察。以上「ツ」反應陰性群ト陽性群トヨリ發病セシ肺結核ヲ其ノ發病時期比較(第五表)ニヨツテ再ビ此ノ問題ヲ考察シテ見ル。

第一ハ肺結核ニハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病スルモノガ無イカ否カト言フ問題デアル。第三表及第五表ニ於テ見ルガ如ク「ツ」反應陰性ナリシ健康者ヨリ1ケ年以内ニ發病セル肺結核ノ3例ガアリナホ前章ニ於テ詳述シタ様ニ確カニ「ツ」反應陽轉後數ヶ月以内ニ發病シタ開放性肺結核ノ2例ノ實例ガアルノデアルカラ肺結核(開放性)ノ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病シ得ル事ハ確實デアル。第二ハ肺結核ハ「ツ」反應陽轉後晚期(1ケ年以後)ニ於テ發病スルヤ否ヤノ問題デアル。第四表及ビ第五表ニ於テ見ルガ如ク「ツ」反應陽性ナリシ健康者ヨリ其後1ケ年以上ヲ經テ發病セル肺結核ノ2例ガアル處カラ觀ルト、肺結核ノ「ツ」反應陽轉後晚期ニ發病スルモノ、存在スル事モ確實デアル。但シ夫等ハ晚期ト言ツテモ陽轉後第三期ニ發病シタモノデアルカ第四期ニ發病シタモノカ不明デアル。

第五表 「ツ」反應陰性群ト陽性群トノ肺結核及ビ胸膜炎發病時期ノ比較

ツヨリ反應ノ檢査月次時	反應陰性群			反應陽性群			備考
	各發病月肺結核數	各核三發病月肺結核數	各炎三發病月胸膜數	各發病月肺結核數	各核三發病月肺結核數	各炎三發病月胸膜數	
1	0			0			
2	0			2			
3	1			4	6	11	
4	0			3			陽性群ニテ肺結核多ク胸膜炎多シ
5	0	0	15	3	11	17	
6	0			5			
7	0			3			
8	0			2	6	14	
9	1	1	11	1			
10	0			2			
11	0			1	7	11	
12	1	1	20	4			
13	0			3			陽性群ニテハ肺結核、胸膜炎共ニ減少ス
14	0	2	7	1	5	7	
15	2			1			

16	1			0			
17	1	2	5	1	2	6	
18	0			1			
19	0			1			陰性群ニテハ肺結核胸膜炎共ニ増加ス
20	1	1	19	0	2	6	
21	0			1			
22	2			1			
23	0	2	14	2	4	5	
24	0			1			
25	1			1			
26	0	2	6	2	4	3	
27	1			1			
28	1			0			
29	1	2	3	0	1	2	
30	0			1			
31	1			1			
32	0	1	3	3	4	2	
33	0			0			
34	0			2			
35	1	1	0	2	4	0	
36	0			0			
計	16	16	108	56	56	84	

第三ハ肺結核ハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病スルモノ多キヤ、晚期ニ發病スルモノ多キヤノ問題デアル。「ツ」反應陰性群ヨリ其ノ檢査後1年以上ヲ經テ發病セルモノ13例ハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病シタモノカ晚期ニ發病シタモノカ不明デアル。又、「ツ」反應陽性群ヨリ其ノ檢査後1ケ年以内ニ發病シタモノハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病シタモノカ晚期ニ發病シタモノカ不明デアル。夫等歸屬不明ナル二群ノ向背ニヨツテ此ノ「ツ」反應陽轉後早期發病ノ者多キヤ晚期發病ノ者多キヤノ問題ハ支配サレルノデアル。斯克夫等2群ノ内ニハ「ツ」反應陽轉後早發ノモノモ晚發ノモノモ含まレ得ルガ事實ハ果シテ如何。

(1) 第五表及ビ第1圖ニ就テ陰性群ト陽性群トノ肺結核發病經過ヲ檢スルニ肺結核ノ發病數ハ陰性群ニ於テハ第2年以後ニ於テ少シク増加ノ傾向アルニ反シ陽性群ニ於テハ第2年以後減少著明デアル。而モ其ノ際夫等肺結核ノ發生母體タル「ツ」反應陽性健康者ノ數ハ減少セシメ非ザルヲ以テ其ノ發生實數ノ減少ハ發生率ノ減

少ヲ示スモノデアル。吾人ハ右ノ事實ニヨリ「ツ」反應陰性群ヨリ其検査後1年以上3年以下ノ間ニ發病セシ肺結核ハ「ツ」反應陽轉後第一期若シクハ第二期ニ發病シタモノ、外ニ第三期ニ發病シタモノヲ含ム事ヲ推定スル事ガ出來ル。何故ナラバ、若シ第一期又ハ第二期發病ノモノノミナラバ、「ツ」反應陰性後2年目及ビ3年目ニ於テ肺結核發病率ノ増加スル譯ガ無イノデアル(第1圖)。但シ、此ノ問題ニ關シテハ他ノ種々ナル條件ノ影響ガ加ハリ得ルカラ速斷ハ出來無イ。又、吾人ハ右ノ事實ニヨリ「ツ」反應陽性群ヨリ其ノ検査後1ケ年以内ニ發病セシ肺結核ハ「ツ」反應陽轉後第三期又ハ第四期發病ノモノ、ミナラズ、第一期若シクハ第二期發病ノモノガ加ハツテ居ル事ヲ推定スル事ガ出來ル。何故ナラバ、若シ、「ツ」反應陽轉後第三期又ハ第四期發病ノモノ、ミナラバ、「ツ」反應陽性後1ケ年以内ノ肺結核發病率ガスクモ大デアツテ、2年目及ビ3年目ニ於テ減少スル譯デ無イノデアル(第1圖)。之ニ由テ觀テモ肺結核ハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病スルモノモ晚期ニ發病スルモノモ共ニ實在スル事ヲ認メテバナラナイ。然シ乍ラ、夫等ノ内何レガ多キヤノ量的關係ハ、是レデハ判ラナイノデアル。

次ニ(2)「ツ」反應陰性群ト陽性群トノ肺結核發病率ヲ比較シテ見ル必要ガアル。若シ「ツ」反應陰性後1ケ年間ノ肺結核發病率ガ、「ツ」反應陽性後1ケ年間ノ肺結核發病率ニ比シテ斷然ト高率ナリトセバ少クトモ其ノ期間ニ於テハ「ツ」反應陽轉後早期發病ノ肺結核ノ方ガ多イト言ヘル。今、第六表ニ於テ兩群ノ發病率ノ比ヲ示ス(海兵ノ「ツ」反應陽性率ヲ63%トシ計算ス)。夫レニ由テ觀レバ肺結核ニ於テハ胸膜炎ト反應ニ、陽性者ヨリ發病スル者ノ方ガ多イノデアル(1参照)。從ツテ、「ツ」反應陽轉後1ケ年以内即チ早期發病肺結核ノ方ガ多イト言フ證明ハ成リ立タ無イ。夫レカト言ツテ夫等陽性後1年以内ニ發病シタ肺結核ノ中ニハ早期發病ノモノガ相當存在スル事前述ノ如クデアルカラ、早期發病肺

結核ノ方ガ少イト言フ證明モ成リ立タ無イノデアル。然シ乍ラ次ニ「ツ」反應検査後1年以上3年以下ノ兩群ノ肺結核發病率ヲ比較シテ見ル(第六表)。其ノ期間陰性群ヨリ發病セシモノハ「ツ」反應陽轉後早期發病ノモノト晚期發病ノモノトノ混合デアルガ、此期間ニ陽性群カラ發病シタモノハ全テ「ツ」反應陽轉後晚期ニ發病シタモノ、ミデアル。故ニ若シ陽性群ヨリ發病セシ肺結核ガ陰性群ヨリ發病セシ肺結核ニ對シ斷然多數ヲ占ムルナラバ、少クトモ此ノ期間ニ於ケル肺結核ハ「ツ」反應陽轉後晚期發病ノモノガ多イト言フ事ニ成ル。第六表ヲ檢スルニ陰性群13例ニ對シ陽性群26例デアル。然シ、海兵ノ陰性者數ト陽性者數トノ比ハ約37對63デアルカラ、夫ニ對スル發病率ヲ求メレバ第2年目1年間ニ於テハ48對52、第3年目1年間ニ於テハ45對55ノ割合ト成ルノデアル。即チ「ツ」反應陽性群ヨリ發病シタモノ、方ガ高率デアリ、ナホ陰性群ヨリ發病シタモノ、内ニモ晚期發病ノモノガ含まレテ居ルノデアルカラ此ノ期間ニ於テハ益々「ツ」反應陽轉後晚期發病ノ肺結核ノ方ガ早期發病ノモノヨリモ多イト言フ事ニナル。即チ少クトモ55%以上ハ陽轉後晚期發病ノ肺結核デアルト結論セテバ成ラナイ。此ノ事實カラ逆推スルト「ツ」反應陽性後1年以内ニ發病シタ肺結核例モ多クハ陽轉後晚期發病ノモノカモ知レナイノデアル。少クトモ其ノ内ノ13例ハ第2年及ビ第3年ニ於ケルト同様ニ晩朝發病ノ肺結核デアラウ。之ヲ要スルニ肺結核(開放性)ニ於テハ滲出性胸膜炎ノ場合ト反對ニ「ツ」反應陽轉後早期發病ヨリモ晚期發病ノ方ガ多イト考ヘテバ成ラナイ。第四ハ肺結核ノ「ツ」反應陽轉後晚期ニ發病スルモノハ、其ノ第三期ニ於ケルモノ多キヤ、第四期ニ於ケルモノ多キヤノ問題デアル。「ツ」反應陰性群ヨリ其ノ反應検査後1ケ年以上3ケ年以下ノ期間内ニ發病シタ肺結核中ニハ「ツ」反應陽轉後早期發病ノモノト共ニ晚期發病ノモノヲ含ムガ、夫等ハ全部「ツ」反應陽轉後第三期即「ツ」反應陽轉後滿4年以前ノ發病ニ屬シ

第四期即「ツ」反應陽轉後滿4年以後ノ發病ニ屬 スルモノハ無イ事ハ明カデアル。

第六表 「ツ」反應陰性群ト陽性群トノ肺結核發病率比較

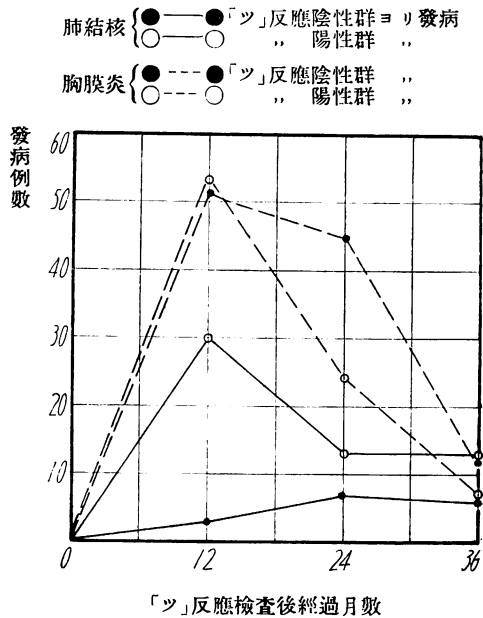
「時テ ツ」 反 應 年 發 病 檢 査 マ	「ツ」反應陰性群ヨ リ發病セル肺結核				「ツ」反應陽性群ヨ リ發病セル肺結核				以合 上計	陰性群 胸膜炎		陽性群 胸膜炎	
	a1	b1	c1	d1	a2	b2	c2	d2		a1	d1	a2	d2
	實數	$a1 \times \frac{100}{e}$	$b1 \times \frac{100}{37}$	$c1 \times \frac{100}{c1+c2}$	實數	$a2 \times \frac{100}{e}$	$b2 \times \frac{100}{63}$	$c2 \times \frac{100}{c1+c2}$		e	實數	比率	實數
一ケ年 以 下	3	9	24	14	30	91	144	86	33	51	62	53	38
一ケ年 以 上 二 年 以 下	7	35	95	48	13	65	103	52	20	45	76	24	24
二 年 以 上 三 年 以 下	6	32	87	45	13	68	108	55	19	12	75	7	25
合 計	16	22	59	32	56	78	124	68	72	108	68	84	32

ス「ツ」反應陽性群ヨリ其反應檢査後1ケ年以内ニ發病シタ肺結核中ニハ「ツ」反應陽轉後早期發病ノモノト共ニ晚期發病ノモノヲ含ミ、又「ツ」反應檢査後2年以上3年以下ノ期間内ニ發病シタ肺結核ハ全部「ツ」反應陽轉後晚期發病ノモノデアルガ、夫等晚期發病ノ肺結核ハ第三期發病ノモノデモアリ得ルシ、第四期發病ノモノデモアリ得ル。然シ乍ラ、若シ夫等全部ガ「ツ」反應陽轉後第三期發病ノモノノミデアルナラハ、其ノ肺結核ノ發病數ハ漸減ノ傾向ヲ示スベキデアラウ。然ルニ第1圖ニ示セルガ如ク第2年13例、第3年亦13例ニシテ其間差異ヲ示サナイ。其ノ曲線ハ胸膜炎ノ場合ト著シク異ナル。此ノ事實ハ夫等肺結核ノ「ツ」反應陽轉後第三期ノミナラズ、第四期ニ互リテモ發病スルモノナルヲ推定セシメル。但シ右ハ何等確證ヲ與ヘルモノデハ無イ。此ノ問題ニ關シテハ更ニ多數ノ材料ニ就テ更ラニ長期ニ少クトモ陽性反應後4年以上ニ互ツテ調査シテ見テ子ハ斷言スル事ガ出來無イノデアル。

之ヲ要スルニ海兵ノ開放性肺結核ハ「ツ」反應陽轉後早期ニモ、晚期ニモ發病スル事ヲ肯定セテバ成ラナイガ其ノ多クハ晚期ニ發病スルモノト認ムベキデアル。但シ、夫等晚期發病ノ肺結核ノ「ツ」反應陽轉後1年以上4年以内ニ發病セシ

モノガ多キヤ、4年以後ニ發病セシモノガ多キヤハ直チニ斷定スル事ハ出來ナイ。抑モ肺結核ニハ多數ノ病型ガアル。我が軍隊ニ於ケル青年期肺結核ニ於テモ亦、必ズシモ其ノ病型ヲニスルモノデハ無イ。凡ソ急性肺癆ハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病スル事多ク、慢性肺癆

第1圖 「ツ」反應陰性群及陽性群ヨリノ肺結核及胸膜炎發病時期比較



ハ晩期ニ發病スル事ガ多イト思ハレル。之ヲ要スルニ我が軍隊ニ於テハ結核感染後早期ニ發病

スル急性肺癆モ少ク無イガ、晩期ニ發病スル慢性肺癆ハ更ラニ多イト解スベキデアラウ。

四。滲出性胸膜炎ト肺結核トノ發病時期比較

滲出性胸膜炎ノ「ツ」反應陽轉後第二期ニ發病スル事多ク、第三期及ビ第四期ニ發病スル事少キ事ニ就テハ余ノ他ノ論文ニ於テ詳論シタ處デアアル(1.2.3)。其ノ大凡、發病時期ヲ明カニスル滲出性胸膜炎ノ發病ト此ノ肺結核ノ發病トノ時間的關係ヲ明カニスル事ハ、其ノ肺結核ノ「ツ」反應陽轉後如何ナル時期ニ發病スルヤノ問題ヲ間接ニ解決スル事ニ成ル。

此ノ滲出性胸膜炎ト肺結核トノ發病時期比較ニ關シテハ二ツノ問題ガアル。其ノ第一ハ「ツ」反應陰性群ト陽性群トニ就テ其ノ反應検査後如何ナル時期ニ於テ胸膜炎ノ發病ガ多ク、又如何ナル時期ニ於テ肺結核ノ發病ガ多キヤノ問題デアアル。其ノ第二ハ同一個體ニ滲出性胸膜炎ト肺結核トヲ發病スル場合。其ノ兩者ノ發病ノ時間的關係如何ノ問題デアアル。

1. 「ツ」反應陰性群ト陽性群トニ於ケル肺結核ト胸膜炎トノ發病時期比較。

肺結核ハ「ツ」反應陽性群ヨリ發病スル事ガ多ク、陰性群ヨリ發病スル事ガ少イ。而モ其ノ發病ハ陰性群ニ於テハ「ツ」反應検査後1年以後ニ於テ増加シ、陽性群ニ於テハ其ノ時期ニ於テ減少スル。然ルニ胸膜炎ニ於テハ之レト反對デ、陰性群ヨリ發病スル事多ク、陽性群ヨリ發病スル事ガ少イ。而モ其ノ發病ハ陰性群ニ於テハ「ツ」反應検査後1年以後ニ於テモ増加セズ、陽性群ニ於テハ其ノ時期ニ於テ甚シク減少スル(第1圖)。即チ「ツ」反應検査後2年以後ニ於テハ肺結核ト胸膜炎トノ發病數曲線ガ互ニ交叉スル傾向ヲ示スノデアアル。此ノ事實ハ肺結核ト胸膜炎トノ發病時期ヲ異ニシ、胸膜炎ハ肺結核ニ先ヅテ發病スル事ヲ示スモノデアアル。即チ胸膜炎ハ「ツ」反應陽轉後早期ニ發病スル事多キモ、肺結核ハ其ノ晩期ニ發病スル事多キヲ物語ルモノデア

ル。但シ、右ハ開放性肺結核ノ場合ノミデアツテ、單ニレントゲンの發病ヲ來シ未ダ臨牀の症狀ヲ呈セザルカ又ハ檢痰ニヨリ結核菌ヲ證明シ得ザル例ヘバ所謂早期浸潤等ニ於テハ此ノ限りデハ無イノデアアル。而シテ、先ニ述ベタルガ如ク、肺結核ノレントゲンの發病ハ「ツ」反應陽轉後第一期ナル事多ク、又肺結核ノ檢痰的發病モ第二期ナル事少ク無イノデアアルカラ、夫等肺結核ノ起源タル肺ノレントゲンの變化又ハ喀痰中結核菌ノ排出ハ胸膜炎發病時期ヨリモ以前又ハ同時ニ於テ存在シタカモ知レナイノデアアル、之ヲ要スルニ肺結核ノレントゲンの發病時期ハ胸膜炎發病時期ヨリモ早イノデアラウガ、其ノ臨牀的發病及ビ檢痰的發病ノ診定ハ胸膜炎發病時期ヨリモ遅イ場合ガ多イト解スベキデアラウ。

2. 同一個體ニ於ケル肺結核發病ト胸膜炎發病トノ時間的關係。

肺結核ノレントゲンの發病ハ「ツ」反應陽性後第一期ニ現ル、事アリ、胸膜炎ノ發病ハ「ツ」反應陽轉後第二期ニ現ル、事多キヲ以テ同一個體ニ於テハ肺結核ニ胸膜炎ノ繼發スル事ガ有リ得ベキデアアル。余ノ「ツ」反應陽轉68例中9例ニ於テ肺ニレントゲンの發病ヲ認メタガ其ノ2例(第1表中第八及九例)ニ於テハ夫ニ滲出性胸膜炎ヲ繼發シタ。其他ノ胸膜炎例デハ「ツ」反應陽轉後胸膜炎發病前ニ於ケル胸部レントゲン検査不十分ナルヲ以テ其ノ關係ヲ明カニセナイガ、胸膜炎ハ必ズシモレントゲンの肺結核ニ繼發スルトモ限ラナイデアラウ。何故ナラバ肺ニ既ニ結核病竈ガ存在シタトシテモ必ズシモレントゲン像ヲ呈スルトハ限ラナイカラデアアル。又、實際第一表中第11.12.13.14ノ諸例デハ、其ノ發病前ニ於テコソレントゲン検査ハシナカツタガ、其ノ發病初期及治療後ニ於テ相當シイレント

ゲン検査ヲ行ツテ見タガ遂ニ肺病變ヲ見出ス至ラナカツタ。然ルニ前述ノ如ク第11例ハ胸膜炎發病後約2ケ年ヲ經テ健康診査ノ際檢痰ニヨリ結核菌ガ發見サレ、第13例ハ胸膜炎ニ脚氣ヲ併發シ發病後8日後死亡シタガ剖檢ニヨリ兩肺ノ開放性原發竈肺癆兼腸結核ノ存スルコトガ發見サレタ。故ニ肺結核ノレントゲン的發病ハ胸膜炎ヨリモ先發スルコト在リ、其ノ臨牀的又ハ檢痰の發病ハ胸膜炎ニ併發繼發又ハ後發スルコト在リト解スベキデアラウ。

斯ク肺結核ノ臨牀的又ハ檢痰の發病ノ胸膜炎ニ併發、繼發又ハ後發スル事實ハ從來モ臨牀上知ラレテ居ル處デアル。我ガ海軍ニ於テモ先年菅原佐平氏ノ之ニ關スル統計的調査(6)ガアル。氏ニヨレバ海軍胸膜炎1271例ノ直接豫後ハ治癒シテ再ビ役務ニ復シタル者ガ約70%、他ノ結核性疾患ニ轉病シタモノガ約10%アル。而シテ其ノ轉病者132例中肺結核61例デ46%、胸腹膜結核46例デ35%、粟粒結核18例デ13%デアツタ。其他ノ海軍ノ胸膜炎ハ其ノ約15%ハ不治ノ儘除役サレルガ、夫等ハ多ク肺結核

其他ノ重症結核性疾患ヲ繼發スルモノデアラカラ、以上胸膜炎ノ約10%ト約15%、合計25%ノ多クハ早晚肺結核其他ノ結核性疾患ヲ繼發スル事ニ成ル。即チ海軍胸膜炎ノ約70%ハ治癒スルガ約25%ハ結核性疾患ヲ繼發スル。而シテ其ノ結核性疾患ノ約46%即チ全胸膜炎ノ約12%ハ肺結核繼發デアルト謂ヘル。

次ニ胸膜炎ノ肺結核後發即チ胸膜炎ノ一旦治癒シテカラ或ル期間ヲ隔テ、後肺結核ヲ發病スルモノガ幾何アルカ、又、幾年ノ後ニ發病スルカ是レハ胸膜炎ノ永久豫後ノ問題デアル。此ノ問題ニ關シテハ從來多數ノ陸海軍軍醫ノ業績ガ在ル。例ヘバ陸軍ニ於テ大正元年以降8年間ニ互ツテ在營中胸膜炎ニ罹患シタモノ4183名ニ就テ其ノ歸郷後ノ健康狀態ヲ調査セルニ治癒ノ狀態ニ在ルモノ59.22%、既ニ死亡セルモノ25.94%デアツタ。而シテ其ノ死亡者ノ死因ノ84.51%ハ結核性疾患デアツタ。又其ノ死亡者ノ大多數即チ86.30%ハ胸膜炎發病後5年以内ニ死亡シ就中3年以内ノモノ最多デアルト言フ(7, 8, 9)。

第七表 胸膜炎發病ヨリ肺結核繼發マテノ期間

除役者 (1922年ヨリ 1925年マデ)	時期	時期										合計	%
		既往症	1年以内	2年以内	3年以内	4年以内	5年以内	6年以内	7年以内	8年以内	9年以内		
結核症ニヨル者 1589例	胸膜炎	41	28	19	10	15	5	2	3	1	124	7.8	
	結核症	9	16	1	2	—	—	1	—	1	30	} 4.4	
	結核疑似症	16	8	6	3	3	2	—	2	—	40		
	其他ノ疾患又ハ既往症ナキモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,385	87.8
非結核症ニヨル者788例	胸膜炎										14	1.8	

余ハ1928年4月我ガ海軍ニ於ケル大正11年度ヨリ大正14年度ニ至ル4年間ノ結核除役者1589例ノ身體歴ヲ調査シ海軍入籍後ニ於ケル胸膜炎既往症ノ有無並ニ其發病ト肺結核(開放性)發病トノ時間的關係ヲ調査シ、其ノ成績ヲ概報シタ(10, 11)。夫レニヨルト胸膜炎ニ續發シタ結核ハ124例デ總結核除役者1589例中ノ7.8%ニ當ル事ニナル(第7表)。此ノ場合其ノ胸膜炎

ヲ「ツ」反應陽轉後第二期ニ發病シタモノトスルナラバ、其ノ胸膜炎ノ發病後約9ヶ月以内ニ發病シタ結核ハ「ツ」反應陽轉後第二期發病ノモノデアリ、其ノ胸膜炎ノ發病後約9ヶ月以上約4年以内ニ發病シタモノハ「ツ」反應陽轉後第三期ニ發病シタモノデアルト解スベキデアル。今第七表ニ就テ之ヲ觀レバ胸膜炎繼發ノ除役結核症(主トシテ肺結核)ノ124例中41例ハ、大凡「ツ」

反應陽轉後第二期ニ胸膜炎ニ併發又ハ繼發シタモノデアリ、57例ハ第三期ニ後發シタモノデアリ、其他ノ26例ハ第四期ニ晚發シタモノデアルト謂ヘル。

但シ、右ハ海兵ノ在役中胸膜炎ニ罹患シタ者ノ内比較の輕症ヲ全治又ハ輕快ニヨリ再ビ役務ニ復シタ者ノミノ其後在役數年間ニ於ケル運命デ

アツテ總胸膜炎患者ノ全生涯ニ互ル運命デハナイ。從ツテ胸膜炎發病後數年以上經過後發病セル肺結核ノ比較の少數ナル事モ當然デハアル。然シ乍ラ、大凡是レニヨツテ肺結核ノ胸膜炎發病後4年以内ニ續發スル事多キ傾向ヲ覗フ事ガ出來ル。

五。總括及結論

1. 「ツベルクリン」反應陽性轉化後如何ナル時期ニ肺結核ノ發病スル事多キヲ明カスルコトハ肺結核ノ發病豫防上及ビ早期診斷上必要ナ事デアル。

2. 「ツベルクリン」反應陽性轉化後肺結核ノ發病スルマデノ期間ヲ實測スル事ハ此ノ問題解決ノ最良法デアル。余ノ「ツベルクリン」反應陽性轉化68例中其ノ後數年以内ニ肺結核ヲ發病シタモノハ11例デアルガ、内9例ハ「ツ」反應陽轉後第一期ニ於テレントゲンの發病ヲ呈シ、其他ノ2例ハレントゲンの發病ガ不明デアツタ。レントゲンの發病ヲ呈シタ9例中2例ハ其後引續キ臨牀的發病ヲ呈シ内1例ハ約半年ノ後ニ檢痰的發病ヲ呈スルニ至ツタ。レントゲンの發病不明デアツタ2例ハ共ニ先ヅ滲出性胸膜炎ヲ發病シタモノデアツタガ内1例ハ其後數月後ニ剖檢ニヨツテ開放性肺結核ノ併發ヲ確認シ、他ノ1例ハ胸膜炎治癒後約2ケ年ヲ經テ開放性肺結核ノ後發ヲ發見シタ。是ニ由テ見ルト將來肺結核ノ臨牀的乃至檢痰的發病ノ起源タルベキレントゲンの發病ハ既ニ「ツ」反應陽轉後第一期ニ於テ現ルル事少ナカラザルヲ知ル事ガ出來ル。

3. 「ツベルクリン」反應陰性群ト陽性群トノ其ノ反應検査後ケ3年間ニ於ケル肺結核發病狀況ヲ見ルニ、開放性肺結核72例中16例ハ陰性群ヨリ發病シ56例ハ陽性群ヨリ發病シテ居ル。而シテ其ノ陰性群ヨリノ發病ハ「ツ」反應検査後滿1年以内ニ少イガ陽性群ヨリノ發病ハ滿1年以内ニ多イ。併シ兩群共2年目ト3年目トデハ餘リ増減ガ無イ(第一圖)。是ニ由テ觀ルト肺結

核ノ臨牀的及ビ檢痰的發病ハ「ツ」反應陽轉後早期ニモ起コルガ晚期ニ起コル事ノ多イ事ヲ知ル事ガ出來ル。

4. 「ツベルクリン」反應陰性群ト陽性群トノ其ノ反應検査後3年間ニ於ケル開放性肺結核發病時期ト胸膜炎發病時期トヲ比較スルニ陰性群ニ於テモ陽性群ニ於テモ肺結核ハ胸膜炎ニ遅レテ發病スル傾向ガ在ル。又同一個體ニ於テ肺結核ト滲出性胸膜炎トヲ發病スル場合ニ於テモ、ツ反應陽轉後第一期ニ於テ肺結核ノレントゲンの發病ヲ來シ、其ノ第二期ニ於テ滲出性胸膜炎ヲ發病シタ例ガアル。又第二期ニ於テ滲出性胸膜炎ヲ發病シ同時ニ開放性肺結核ヲ繼發シタ1例ガアル。又第二期ニ於テ滲出性胸膜炎ヲ發病シ第三期ニ至リテ開放性肺結核ノ後發シタ例ガアル。ナホ胸膜炎ニ續發シタ除役結核症124例ニ就テ其ノ胸膜炎發病ヨリ結核發病マデノ期間ヲ調査スルニ41例ハ滿1年以下57例ハ滿1年以上滿4年以下、其他ノ26例ハ滿4年以上9年以下デアツタ。是ニ由テ觀ルト肺結核ノ臨牀的及ビ檢痰的發病ハ大凡胸膜炎發病後4年以内ニ起コルモノ、多イ事ヲ知ル事ガ出來ル。

5. 以上ノ事實ヲ綜合考察スルニ、肺結核ノレントゲンの發病ハ「ツ」反應陽轉後第一期ニ多ク、滲出性胸膜炎及ビ急性肺結核ノ臨牀的竝ニ檢痰的發病ハ「ツ」反應陽轉後第二期ニ多ク、慢性肺結核ノ臨牀的竝ニ檢痰的發病ハ「ツ」反應陽轉後第三期ニ多ク第四期ニ及ビテ次第ニ減少スルノデアラウト考ヘラレル。但シ、肺結核ノ臨牀的發病ハ多クハ慢性デアリ、レントゲン検査

及ビ檢痰モ亦其ノ臨牀の發病ヲ待テ始メテ行ハル、場合ガ多イノデアラカラ、一般ニ肺結核ノ診定ハ「ツ」反應陽轉後晩期ニ成ル場合ガ多イノデアラウ。

本研究ノ報告ニ當リ岡治道博士ノ御助力ヲ感謝ス(終)

(本研究ノ要旨ハ昭和6年10月30日海軍軍醫學校研究會ニ於テ講演セリ)

文 獻

- 1) 小林義雄, 「ツベルクリンアレルギー」ト肋膜炎(滲出性胸膜炎ノ結核感染早期發病論). 『結核』第9卷. 第10號. (1931年10月).
- 2) 小林義雄, 滲出性胸膜炎ハ「ツベルクリン」反應陽性轉化後早期ニ發病ス. 東京醫事新誌. 第275號. (1931年12月).
- 3) 小林義雄, 滲出性胸膜炎ハ「ツベルクリン」反應陽性轉化後晩期ニ於テモ發病スルヤ. 東京醫事新誌. 第276號. (1932年2月).
- 4) 小林義雄, 「ツベルクリン」反應ノ陽性轉化ト胸膜炎ノ發生. 東京醫事新誌. 第2665號. (1930年3月).
- 5) 小林義雄, 沓掛諒, 椎名三郎, 「ツベルクリン」反應陽性轉化後早期ニ發生セル滲出性胸膜炎ノ一剖檢例. 第10回日本結核病學會總會演說. 同抄録『結核』第10卷. (1932年).
- 6) 菅原佐平, 帝國海軍ニ於ケル胸膜炎發生現況. 海軍軍醫會雜誌. 第16卷. 第53頁. (1926年). 軍醫團雜誌. 第157號. (1927年).
- 7) 百瀬文郎, 軍隊胸膜炎ノ原因及ビ豫後ニ關スル研究. 軍醫團雜誌. 第182號. 第984頁. (1928

- 年). 8) 出井淳三, 胸膜炎ノ統計の竝ニ臨牀的觀察. 『結核』第6卷. 第1147頁. (1928年).
- 9) 陸軍省軍隊胸膜炎調査會. 軍隊胸膜炎調査會業績綜括報告. 醫事公論. 第888號. (1929年).
- 10) 小林義雄, 第6回日本結核病學會總會ニ於ケル田澤録二氏演說ニ對スル追加. 『結核』第6卷. 第6號. (1928年).
- 11) 上田春次郎, 帝國海軍胸膜炎ノ研究. 其一. 胸膜炎ト結核トノ關係. 『結核』第6卷. 第6號. (1928年). 海軍軍醫會雜誌. 第17卷. 第287頁. (1928年).
- 12) 田澤録二, 特發性肋膜炎ト結核. 内外治療. 第6卷. 第12號. (1931年12月).
- 13) 田澤録二及小林正男, 肺結核患者ノ肋膜炎既往症ニ就テ. (第6回日本結核病學會演說要旨). 『結核』第6卷. 第5號. 第590頁. (1928年5月).
- 14) 小林義雄, 滲出性胸膜炎ト肺結核トノ發病時期比較(會)海軍軍醫會雜誌. 第20卷. 第6號. 第584頁. (1931年12月).